

パラ駅伝 in TOKYO 2019 に参加して

参加した学生たちからの感想

パラ駅伝は、毎年東京駒沢競技場にて、全国から十数チームが集まり、「パラ駅伝 in TOKYO」は障がい乗り越え、障がいのあるランナーと健常ランナーがともにタスキを繋ぎ、スポーツの楽しさを共有し、選手、観客、ボランティア、大会関係者すべての人が楽しみ、一体となって創り上げる大会です。作新学院大学は最初の大会からボランティアとして選手サポートのボランティアに参加しています。学生から寄せられた感想を掲載します。

- とてもよい体験になりました。
- 後輩にも味わってほしい。
- 今年は昨年と違って、最初は大変だと思いましたが、終わってみると些細なことだけど力になれてよかった。
- 前回より充実した時間でした。自分自身の成長にもつながったと思います。
- 今年は参加の方々と直接接する時間が長く貴重な時間を過ごすことができました。大学で学んだことが理屈では理解していても実際の場面ではなかなか上手く支援できなく、もっと自信をもって接するなど、繰り返し復習しなければならないと感じました。
- 来年は就職関係で参加できないと思いますが、応援でもできればいいなと思います。
- 様々な障害を抱えた人たちと接することで、大学の授業だけではわからない多くのことを身につけることができました。例えば、視覚障害のある方に「名札を預かってください」と渡されたが、なかなか手を離しませんでした。一瞬疑問に思いましたが、「預かりました」というと、手を離されました。自分の行動を細かく報告し、相手が状況把握できるようにすることが必要と感じました。次の機会も参加したと思います。
- 初めてボランティアに参加しました。前日のお話を聞いてもとても不安でした。当日は先輩たちに聞きながらどうにか少しできたと思います。大変でしたがとてもよい経験になりました。
- 自分のサポートチームの他のチームとも仲良くできました。参加してよかったです。
- チーム担当があったため、責任感をもちながら行動することができました。前日からサポートを経験することができたので、生活上の困難さということを直に学ぶことができました。オリンピックの



選手村を、障害を持つ人たちが使用するとなると、こういうところは直したほうがいいかな？と考えることもできました。

- 大会当日は、本気で声をだしながら応援し、全員がゴールしたときには、チームの皆さんと共に喜び合うことができました。ぜひ次の大会のときにも参加したいと思います。このようなボランティアにもっと参加したいと思います。
- 初めてこのようなボランティアに参加し、障害を持つ人たちがそれぞれの障害を越えて走りきる姿を見ることができました。通常の学校生活では経験できない多くのことを学ぶことができました。

